

コスモス 11月号

第67巻 第11号

◆宮柁ニカレンダ―(8)十一月の歌

人気なき富山の駅にて出征兵われをば送りた

まひき君は

歌集『純黄』

第十一歌集『純黄』の「木俣さんを悼む」二十首中の八首目。この歌は昭和五十八年四月四日、かつての兄弟子、木俣修氏逝去の折に往時を偲んで詠まれ告別式の霊前に捧げられた。詞書きがある。「昭和十四年十一月、応召兵として出征する途次、木俣さん夫妻は富山の駅でわたしを見送ってくれた」と。(冷酒の三合ばかりを分け飲みて胸衝くおもひは互に言はず 木俣修)戦時下の暗い深夜の駅ホームでの切迫した別れ。木俣修三十三歳、宮柁二は二十七歳であった。

(日影 康子)